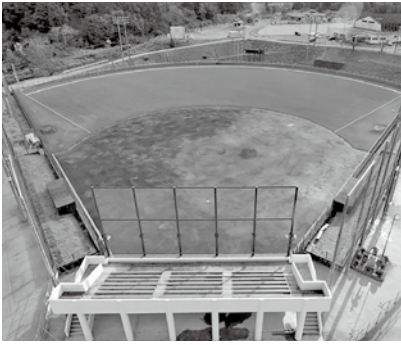


全面改修を祝い記念式典
「出石総合スポーツセンター野球場」リニューアル

「出石総合スポーツセンター野球場」の改修工事が完了し、3月30日、同球場でリニューアル記念式典を開催しました。

同球場は、1973年の竣工以来、数多くの野球大会が開催され、現在では、NOMOベースボールクラブの練習球場としても利用されています。しかし、開設から45年が経過し、グラウンドなどが経年劣化していたため、昨年6月からスポーツ振興くじ助成金を活用し、全面改修を行ってきました。改修は、グラウンド全面に暗渠を埋設し排水対策を行った他、外野を人工芝に張り替え、内野を黒土に。



▲新しくなった出石総合スポーツセンター野球場



祝 出石総合スポーツセンター野球場改修工事完成

また、ナイター照明をLED化し、スコアボードも改装。グラウンドの周囲には、高さ約15mの防球ネットを新設しました。式典後には、オープンリーグの少年野球チーム、5チームが参加した「第35回出石町少年野球大会兼第17回大友工杯」が開催され、新しくなったグラウンドで、子どもたちの、伸び伸びとしたプレーが繰り広げられました。

観光客の利便性向上
豊岡市オリジナルのフリーWiFi整備

城崎温泉や主要観光施設などの市内44カ所に、誰でも無料で利用できる公衆無線LAN（フリーWiFi）を整備しました。城崎温泉街では、旅館や飲食店などの民間事業者の協力も得て、主要な通り（駅前・駅通り・北柳通り・南柳通り・湯の里通り）をカバーしています。

これまで外国人旅行者向けであった市内のフリーWiFiが

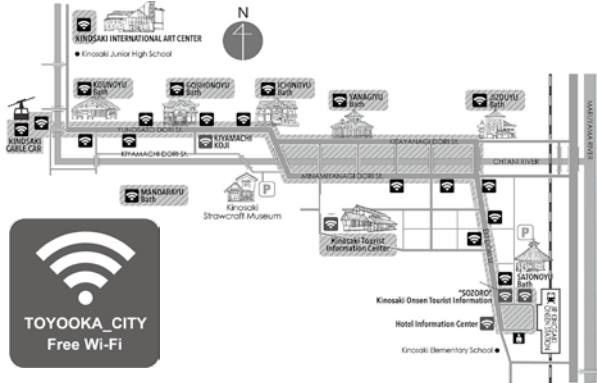
イ環境を、日本人観光客らも利用可能な機器に更新しました。外国人のみでなく日本人観光客の利便性を向上させ、本市への一層の誘客拡大につなげます。

SSIDは「TOYOOKA CITY Free Wi-Fi」。SNS（ソーシャル・ネットワークやメールサービス）のアカウントやメールアドレスを使って利用者情報を登録することで利用できます。

「TOYOOKA CITY Free Wi-Fi」の整備箇所

豊岡地域（豊岡観光協会、コウノトリ但馬空港、玄武洞公園、コウノトリ文化館）、城崎地域28カ所、竹野地域（たけの観光協会、竹野駅観光案内所、北前館）、日高地域（道の駅神鍋高原、日高神鍋観光協会）、出石地域（全但バス出石営業所、但馬国出石観光協会、出石観光センター、出石永楽館、湖月堂、正覚田中屋）、但東地域（シルク温泉やまびこ）

《城崎温泉街の利用可能エリアマップ》



主な市政の動き

【3月】

13日・兵庫県北部合同企業説明会2020

・豊岡市老人福祉計画・第7期介護保険事業計画推進委員会

15日・豊岡市におけるジェンダー課題「豊岡市と慶應義塾大学共同研究成果報告

27日・豊岡市子ども・子育て会議

30日・出石総合スポーツセンター野球場リニューアルオープン

31日・豊岡市大交流ビジョンを策定
・「豊岡市新文化会館整備基本構想」を策定

【4月】

1日・新たな豊岡市地域おこし協力隊員3人が決定
2日・豊岡農業スクール入校式
6日・豊岡市民救急ライフサポーター委嘱状交付式
8日・ボート日本代表チーム強化合宿（27日予定）

命をつなぐプロジェクト

本市初「豊岡市民救急ライフサポーター」決定

本市初となる市民による豊岡市民救急ライフサポーターが決定し、4月6日、消防本部で、消防長が同サポーターに委嘱状を交付しました。

今回委嘱されたのは公募による16人で、心肺蘇生法やAED使用の知識や技能、指導技法など、消防本部独自の講習を受けた有資格者です。委嘱期間は4月1日から2021年3月31日までの2年間で、PTAや事業所など

の要請に応じて豊岡消防署などが実施する「救命入門コース」と「普通救命講習Ⅰ」において、ボランテアで指導補助を行います。

本市の平成30年度の救急出場は4153件で、年々増加傾向にあります。身近な人による応急手当が救命率の向上につながることから、同サポーターと共に普及啓発を図り「市民全員が心肺蘇生をできる豊岡市」を目指します。



▲一人一人に委嘱状を交付

戦略目的「暮らしやすさな豊岡と考え、定住する若者が増えている」 「移住相談ワンストップ窓口」の実績

移住希望者の相談に対応するため、市役所内に開設した「移住相談ワンストップ窓口」(平成28年4月開設)の実績を取りまとめました。31年3月末までの窓口相談の件数は718件。移住した人は年々増加しており、28年度が27人(11組)、29年度が61人(29組)、30年度が76人(38組)の計78組164人です。そのうち69%が30歳代以下です。

《地域別の移住者数》



《年齢別の移住者数》

年代	平成28年度	平成29年度	平成30年度	計
～10歳代	7人	15人	16人	38人(23%)
20歳代	3人	11人	16人	30人(18%)
30歳代	8人	17人	21人	46人(28%)
40歳代	5人	6人	10人	21人(13%)
50歳代	1人	4人	8人	13人(8%)
60歳代～	3人	8人	5人	16人(10%)
計	27人	61人	76人	164人(100%)

中貝市長の徒然日記 ⑬

天平の藁

例年3月、奈良に旅をします。今年も、平城宮跡から田道間守所縁の垂仁天皇陵を抜けて、唐招提寺に着きました。門をくぐると、どおん！という太鼓の音が聞こえてきました。講堂の軒下で、体格の良い若いお坊さんが、直径1mほどの大きな太鼓を激しく打ち鳴らしていました。音は太く、強く、お腹の底に響いてきます。

3月11日でした。

演奏が終わると、講堂の中で、鎮魂の法要が始まりました。たまたま居合わせた人々と一緒にその場にたたずみ、暗い講堂の中から漏れてくるお経に耳を傾けました。目を閉じて手を合わせていると、時折、じやりじやりと人が近づいてくる音が聞こえ、やがてその音も止まるのでした。皆が祈りを捧げていました。読経が終わると、お坊さん方が出てきて、再び演奏が始まりました。複数の太鼓が強くと、強く叩かれていきます。

「逃げる！と言ってやればよかった」

陸前高田市長の言葉を思い出していました。市民への強い責任感から、多くの職員が最後まで使命を全うしようと思いました。443名の職員中、111名が犠牲となりました。「周辺のまちで復旧が進む。なせうちは進まないのだ？と市民から聞かれる。なせう復旧を先頭に立って担うべき職員が、命を落として、いなくなってしまったからだ」

中越地震で被災した旧山古志村の長島忠美村長(当時)から聞いた話も思い出しました。「次々と避難所に視察にやってくる偉いさん方のために、いちいち防災靴を脱がなくていいようにシートを敷いた。当然、皆、土足のまま上がった。でも、それでも、天皇、皇后両陛下は、靴を脱いで上がった」女性のお坊さんのヴァイオリン演奏が始まりました。「花は咲く」という曲でした。心に染み渡りました。見上げると、講堂の屋根の上に、青空がどこまでも広がっていました。